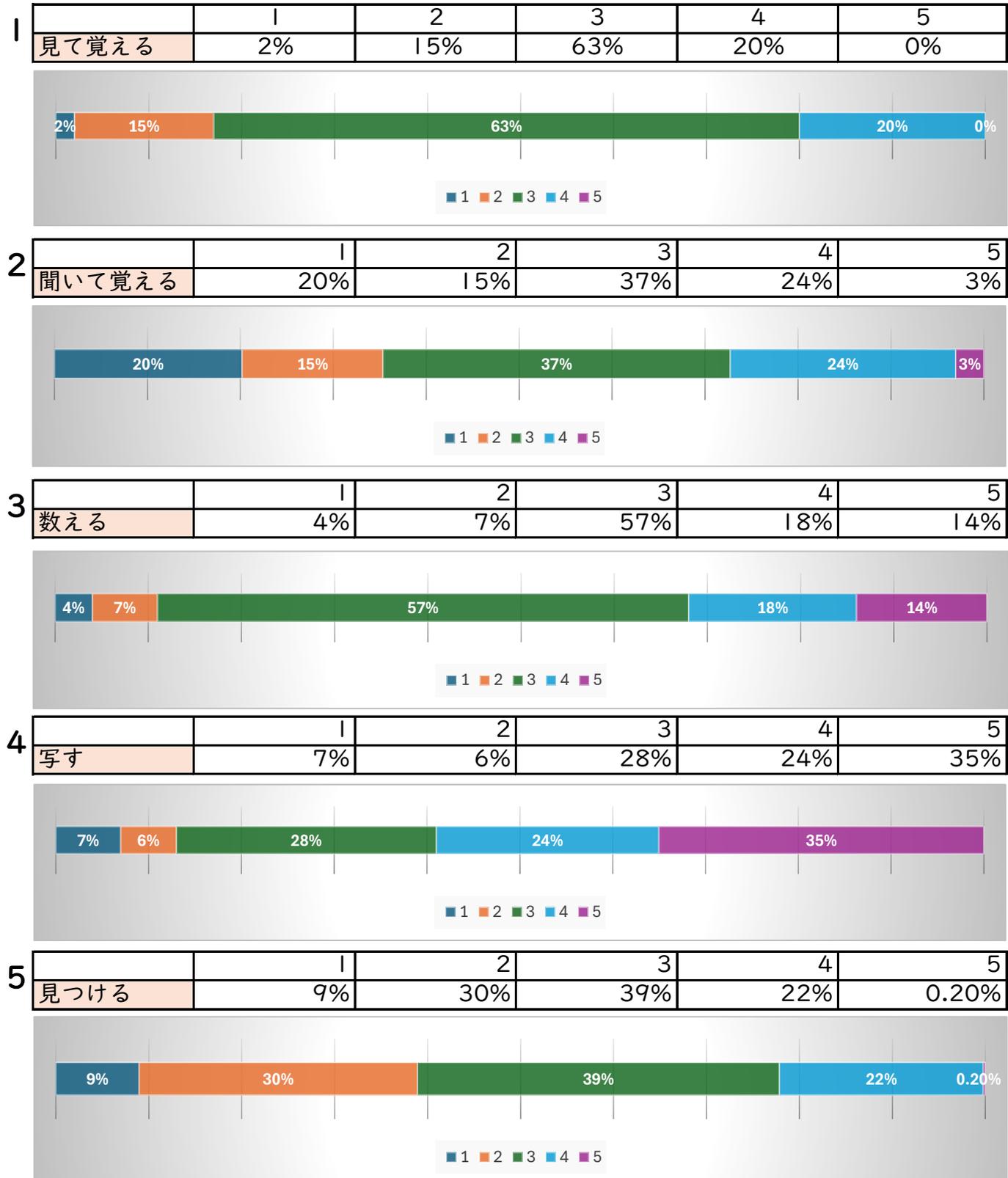


11月コグトレミッションの結果

本校で行っている「コグトレミッション」の結果は、問題の正答数をもとに、5つの段階に分けて示したものです。この評価は、知能検査や学力テストのように、全国と比較したり知能や能力の高低を判断したりする標準化された検査ではありません。あくまで、「その子が今、どのくらい取り組んでいるか」「どの程度スムーズにできているか」を分かりやすく整理した目安です。結果の段階により優劣をつけたり、将来の学習能力を示すものではありません。

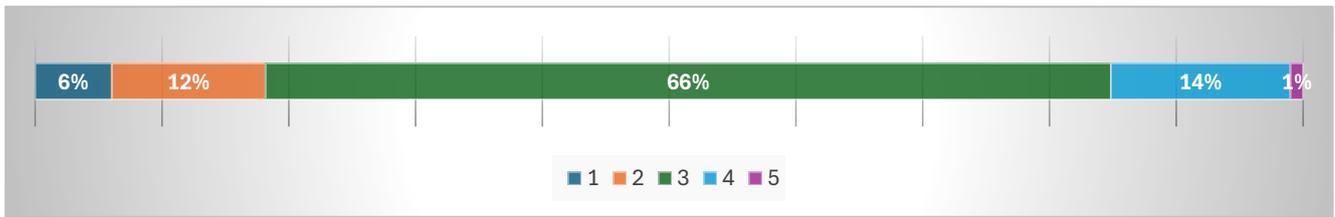
※この評価は正答数による目安です。知能検査や成績評価ではありません。

* 受けた人数の割合で示しています。



6

	1	2	3	4	5
想像する	6%	12%	66%	14%	1%



【結果より】

・「写す」…4, 5が59%

→ 視覚情報を正確に捉え、模写する力が比較的安定している。

・「見て覚える」「数える」「想像する」…3が50~60%

→ 平均的だが、伸びしろが大きい。

→ 視覚処理は強いが、保持の部分（ワーキングメモリ）に課題が残る。

・「聞いて覚える」「見つける」…1・2が多い

→ 聴覚記憶の弱さ、注意の向け方、選択的注意の困難さが読み取れる。

・見て覚える → 3が約半数。平均~やや得意。

聞いて覚える → 1・2が多く、最も苦手な領域。

→ 母語で学んでない児童は日本語による聴覚理解が負荷になる。注意がそれやすい場合や感情コントロールが難しい場合は、言葉での情報保持が特に難しくなる。

◎ 強み（視覚処理）

・写す（最高の領域） ・見て覚える（平均~やや得意）

➡ 視覚優位の学校であることが明確。

○ 普通（伸ばすと効果大）

・数える ・想像する

➡ 定着を目指せば学習面の底上げにつながる。

△ 弱み

・聞いて覚える ・見つける

➡ 聴覚処理と注意の弱さが学習をとめてしまう。

※個人差やその日の体調・気持ちによって結果は変わります。

